

子供も大人も大興奮！！／本文の文字を大きめにしました。 ISSN 2185-632X

すずがも通信

認定NPO法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 第218号

2016年6月1日 発行

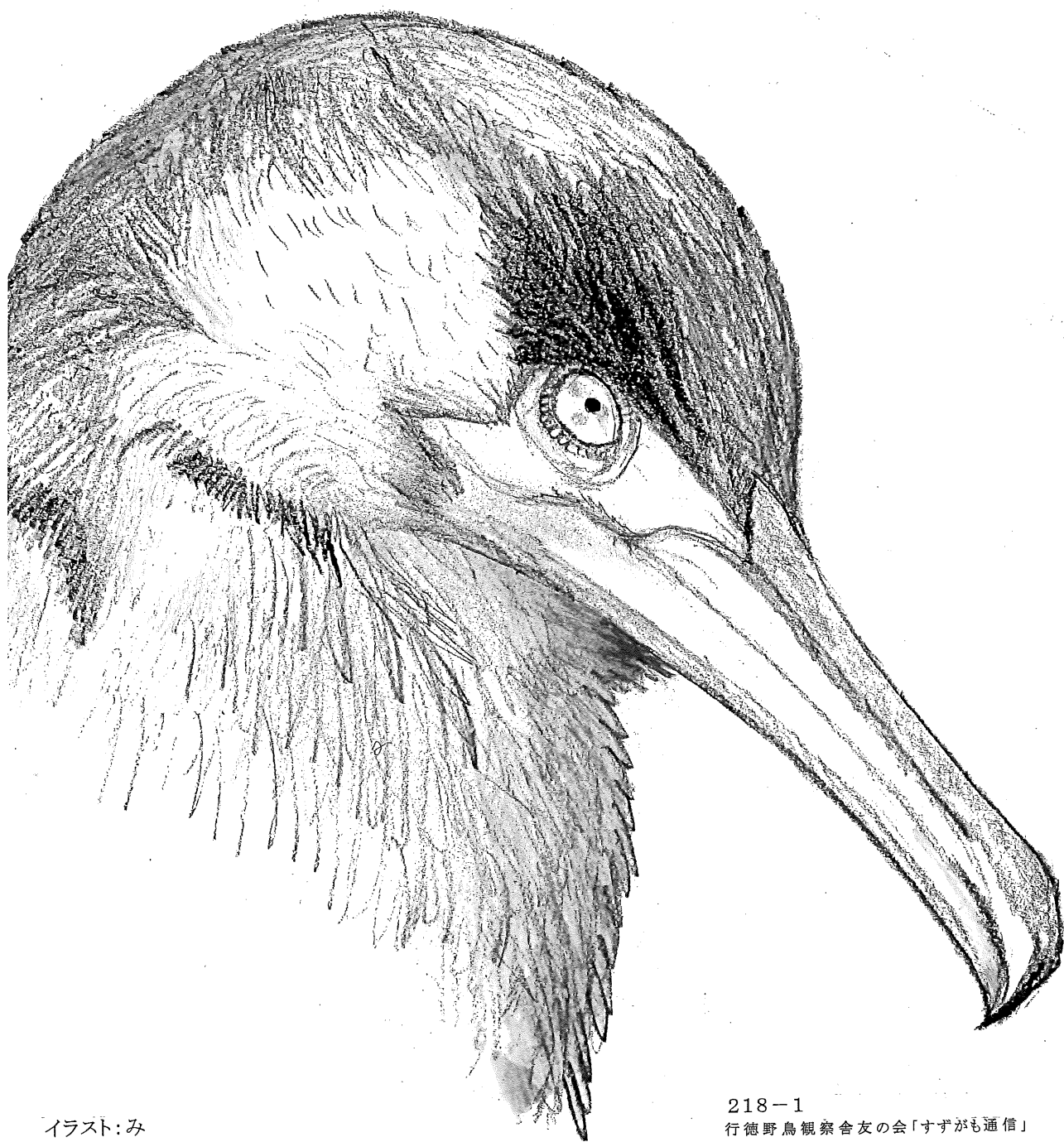


イラスト:み

218-1

行徳野鳥観察舎友の会「すずがも通信」

友の会インターン生企画 親子カニ観察会 (5月7日)

お天気にもめぐまれ、気温もあがりました。

インターン企画、2月末から打ち合わせや下見を重ねてきました。本番ドキドキです。午前中に、インターン3人で、子どもたちに見せるための「仕込み」として、必死でクロベンケイガニを3匹、百合が浜でチゴガニ、ウモレベンケイガニを捕まえて（両川君さすが）、なんとか仕込み完了。

お子さん14名保護者10名、予約通り全員参加してくださいました。スタッフ3名、助っ人ボランティアさん8名。私たちの気の回らないところ、知識の至らないところをさりげなくフォローしてくださいました。本当にありがとうございました！

小さい子どもたちには、隠れてしまったカニが見つけれられないのではという心配をよそに、ボランティアさんやお父さん方も大奮闘でたくさんカニを捕まえ、どの子も間近で見ることができました。

惜しむらくは、真っ赤なベンケイガニが出てきてくれなかったこと。けれど、穴の中に入っている様子、出てきたり、逃げる様子など、小さな子たちも親御さんたちも、しっかり見られて、感じる事ができたのがよかったです。小島岬では、夢中になってスコップで砂を掘り、コメツキガニを捕まえていました。最初は「保護区に入るのが怖い、カニが怖い」とべそをかいていた子も、途中からは夢中で生き物探しができたのは本当にうれしかったです。

道中、スイカズラの花の蜜を吸ってみたり、花の匂いを嗅いだりと、カニだけでない保護区を楽しめたのではと感じました。

スタンプラリーは、最初の、ヤマトオサガニ、トビハゼのあたりは、熱心でしたが（年少）、そのうち、どうでもよくなった感じがありました（笑）

心配していたケガや熱中症などもなく、途中でぐずる子どもでず、2歳児も最後までほぼ自力で歩きとおせました。

毎日新聞の小林記者も同行取材。「取材そっちのけではしゃいじゃった♪」と話していたのが印象的でした。今朝（5月8日）づけで、早速新聞に載せてくださってます。

山本さんが参加者（保護者・子ども）アンケートを作成、実施してくださいました。

こども観察会のニーズがあることを実感できる結果となりました。

（友の会インターン 中村麻衣）

観察舎休館後はじめての春

平成27年12月28日以来、観察舎が耐震強度不足を理由に無期限休館となって5カ月がたちました。この間、県の行政改革審議会は、廃止・解体という方向が出されたいっぽう、観察舎の必要性に理解を示す意見も出され、地元の市川市との協議を求めました。

市川市の大久保博市長は、千葉県に観察舎の存続を求める要望書を提出したうえで、県の環境生活部長と会い、行政改革審議会の答申が出され次第本格的な協議を開始することを確認しました。また市川市議超党派8名が観察舎を視察し、市議会も千葉県に存続を働きかける予定とのことです。

地元で観察舎再生にむけた署名活動をしている「行徳野鳥観察舎を愛する者一同」の方によると、署名は5月13日現在で17,700筆を超えたとのことです。また、千葉県野鳥の会、日本野鳥の会東京、緑のみずがき隊など多くの方々による署名運動が続いています。

観察舎の業務は、傷病鳥舎横の小さな旧管理人棟で相変わらずおしくらまんじゅうで行っています。新しい年度の観察会・行事もますます快調にスタートしました。集合は観察舎「前」。以前より開催アナウンスや周知、事前準備はやりにくいですが、やむをえません。

先が見えない状況ですが、新たな観察舎像や、将来の保護区像を描いて示すことは、私たちの重要な使命であると思います。

一つ朗報。観察舎わきに、仮設トイレができました。これ一つでも、多くの方が声をあげ、担当者の尽力が有った事と思います。(清水 大悟)

※この原稿は、平成28年5月10日現在の情報で書かれています。5月20日に次の行政改革審議会が開かれ、観察舎のあり方に関する答申案が審議される予定です。

3・4月 保護区の鳥の様子

川上正敬

2016年3月から4月の保護区鳥類調査の結果です。この二ヶ月で65種を記録しました。冬鳥がどんどんいなくなる一方で、春に保護区を通過する旅鳥や、夏鳥が姿を見えます。今季初認種の表中種名に*を付けました。

《今季のトピックス》

1. 今年は北池にホシハジロがよく入り、最大で554羽（3/13）を記録、2002年度以来の水準でした。
2. 2月から営巢中の北池のアオサギに雛が生まれました（3/13に初認）。
3. カワウコロニー内にもアオサギとダイサギの営巣が確認されました。
4. 夏鳥の初認日は、コチドリ3/21、ツバメ3/25、アマサギ4/19、オオヨシキリ

No.	科名	種名	3/6	3/13	3/22	3/29	4/5	4/12	4/19	4/25
1	キジ科	キジ						○		○
2	カモ科	オカヨシガモ			○	○	○			
3		マガモ	○		○		○			
4		カルガモ	○				○	○	○	○
5		ハシビロガモ		○	○		○			○
6		オナガガモ	○	○	○	○	○			
7		コガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
8		ホシハジロ	○	○	○	○	○	○		
9		キンクロハジロ	○	○	○	○	○	○	○	○
10		スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
11		ウミアイサ	○	○	○	○	○			
12	カイツブリ科	カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○
13		カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○		○
14		ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○	○		
15	ハト科	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○
16	ウ科	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○
17	サギ科	* アマサギ							○	
18		アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
19		ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
20	クイナ科	クイナ	○	○						
21		バン	○							
22		オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○
23	チドリ科	* コチドリ			○	○	○	○	○	
24	シギ科	オオジシギ							○	
25		タシギ		○						
26		イソシギ		○	○				○	○
27	カモメ科	ユリカモメ	○	○	○	○	○			
28		セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	
29		オオセグロカモメ		○						
30	ミサゴ科	ミサゴ	○	○				○		○
31		トビ	○		○			○		

32		チュウヒ	○	○	○		○			
33	タカ科	ハイタカ			○			○		
34		オオタカ		○			○			
35		ノスリ	○	○	○					
36	カワセミ科	カワセミ	○		○	○	○	○	○	○
37	キツツキ科	コゲラ						○		
38	ハヤブサ科	チョウゲンボウ		○						
39		ハヤブサ		○						
40	モズ科	モズ	○	○		○			○	
41		オナガ			○	○	○			○
42	カラス科	ハシボソガラス	○	○		○	○	○	○	
43		ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○
44	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○
45	ツバメ科	* ツバメ					○	○	○	○
46	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ウグイス科	ウグイス	○	○	○	○	○	○		
48	ムシクイ科	センダイムシクイ							○	○
49	メジロ科	メジロ	○	○	○	○		○		○
50	ヨシキリ科	* オオヨシキリ								○
51	セッカ科	セッカ							○	
52	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		
53		アカハラ	○		○			○		
54	ヒタキ科	ツグミ	○	○	○	○	○	○		
55		ジョウビタキ	○	○	○	○				
56	スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○
57	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○		○	○		○
58		セグロセキレイ		○	○	○				
59		カワラヒワ			○	○	○	○	○	
60	アトリ科	ベニマシコ	○		○	○		○		
61		シメ	○	○	○		○	○	○	
62		ホオジロ	○	○		○	○			
63	ホオジロ科	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○
64		オオジュリン	○	○	○	○	○	○	○	
65	ハト科 (外来種)	ドバト	○	○	○	○	○	○		○
種数			44	45	44	38	40	39	29	28



マ ヒ ワ

問 このトリは何かな？

- ヒント 1. 黄色
2. M字
3. 『ニチニチ』



答は マヒワ



なぜか スタッフ 内での ききなし
は『ニチニチ』



日々是
好日



今期は3人のインターンが活躍してくれています！

前号に引き続き R 君にインタビュー★

▼楽しかった出来事はなんですか？

※江戸前干潟研究学校で多くの種類の魚やカニを見られたこと。今までに見る機会があまりなかったのでとても楽しかったです。

▼辛かった仕事はありますか？

禽舎のエサ入れ・水入れを洗うのは腰も痛くなり疲れる作業でした。

▼友の会インターンのお勧めポイントはありますか？

野鳥病院と保護区の管理、どちらにも携われるので広い経験を得ることができます。観察会などのイベントが多くあるのも良いところです。

R 君、前号(すずがも通信 217 号 2P)に引き続き、インタビューお疲れさまです！

R 君はインターン初日から、もっとも過酷な夏の禽舎のコンポスト空け作業を2週連続でしてくれましたね。

いい具合？に発酵が進んでいてものすごい臭い…よくぞ、インターンを続けてくれました。ありがとう！

※江戸前干潟学校は6月はお休みですが、7月以降も実施予定です！（日にち未定、詳しくはWEBで！）

時間は午前10時～15時

午前のみ・午後のみ参加も可能です。

小学生以上推奨ですが、お子さんが参加される場合は保護者同伴でお願いいたします。

☆☆昼食・長靴必須です☆☆



白鳥たちが夢の国へ

本日は、OK 牧場から夢の国へ向かわれる白鳥さん達を代表して黒鳥のクロさんへインタビューしました。

OK 牧場で不満な所はどこでしたか？

OK 牧場で生活していて一番不便だったのは、狭いこと。この広さに最大5羽でしたから。

では、よかったことはなんですか？

いつも遊びに来てくれるお客様と仲良くなれたと思う……

最後に皆様にお伝えしたいことはありますか？

皆さんとお別れするのはとても寂しいけれど、長い間本当にありがとうございました。みんなで幸せに暮らします。夢の国に期待が膨らんでいます！

新天地は福島県です。プールは 2m×6m×1m。足元は新鮮なワラを敷いてあり、餌の野菜はサラダ用の柔らかいもの。至れり尽くせりの環境に感謝しか表せません。

また飼い主に名乗りをあげていただいた R 様は様々な種類の動物を大切に飼育しておられるかたで、安心してお任せできました。

R 様の奥様は芸術家で羽ペンを用いた作品をお作りになられています。換羽ともなれば大量の羽が抜けますのでお役に立てることを願っています。

OK 牧場で過ごした数年は実りの多いものでした。

本当にありがとうございました。



野鳥病院新聞

2016 年(平成 28 年)

3 月～4 月号

第 43 号

担当：ゆきおんな

コブハクチョウの幸ちゃんの手乗りになるほど懐いたそうです。

～うれしい報告が次々と～

野鳥病院では超レアな鳥 クロツグミ。

春になりぐぜりも快調で無事放鳥。今頃元気に囀っていることを願うのみです。

そして、違法飼育されていたマヒワ。

1 羽は蒲柳の質のようでしょうちゅう体調を崩してスタッフをやキモキさせました……

もう 1 羽はとても元気で手のかからない子でした。時節も良く警察の立ち合いの元、保護区に放鳥したのが 4/20。人慣れしているので心配は尽きませんでしたが、野外でこそその輝きということで放鳥しました。その後びっくりする知らせが！なんと 27 日に常連ボランティアの M さんが治療室へ。「最近マヒワ放した？」「先週放しました」「じゃあこの子？」と見せられた 1 枚の写真！なんと放したマヒワでした！違法飼育、さらに約 1 年狭いかごで暮らしていた彼！とても凛々しく見えました。この先も彼は様々な試練に直面するでしょうが、強く生きていってくれると思います、一緒に放したもう 1 羽も元気でいることを願ってやみません。

またミツユビカモメも銚子にて無事放鳥し高く舞い上がったのこと。今回は幸せの報告が多く良かったです。



さあ草刈りシーズンだ

～常勤スタッフによる保護区・観察舎情報～

何故か毎週月木に雨が降る謎サイクルの4月が終わり、草花の香り満ちる5月へ。鳥の方も冬鳥たちが帰り夏鳥、旅鳥たちが渡ってきました。花から緑の季節、うなるエンジンきらめく刃、今日も明日も明後日も、草を刈って刈って刈りまくるシーズン到来です。

○保護区

日に日に伸びの勢いが増す草に合わせて観察路や畦の草刈りが本格化。刈って空いたスペースに入ろうと横からも草やツルが伸びてくるので、足元の路面だけでなく道脇も刈っておかないと後々大変になってきます。水路や干潟ではカニやトビハゼなどが活発化。目の前で観察できるウラギク湿地の木道(トビハゼルート)では、劣化し分解寸前になっていた渡り板を何枚か交換。4月～5月上旬は強風の日が多く、小島岬の止まり木、通称「鳥居」の片方が折れてしまいました。ミサゴ等鳥がよく止まったりするので早めに改修したいところです。

湊池棚田では水田の準備中。4月ボランティアデーで撒いた堆肥(野鳥病院床材のおがくずや餌の残りを堆肥化しています)をトラクターで耕耘。水を戻した後トラクターで代かき中。苗はハクチョウ達のいなくなった OK 牧場囲いを利用して準備。一部スズメに食べられたりしましたが順調なら5月ボランティアデーで田植え予定。

鳥の方は冬集まっていたカモメ、カモ類や猛禽たちがすっかり姿を消し、代わりにカモメ類ではコアジサシが、カモ類はカルガモが増えスズガモ等がごく少数居残り、猛禽はミサゴがいる他この冬はあまり見られなかったチョウゲンボウが出てくるようになっています。チュウヒも5月に記録あり。この他夏鳥ではツバメ、オオヨシキリ、コチドリ、チュウシャクシギなど。ここ1・2年少なかったオオヨシキリ・セッカはちょっと増えた感じ。コチドリは今年も導流堤を気にしています。4月半ばからの渡り期にはキビタキやセンダイムシクイ

などの声が鴨場との境の林を中心に聞かれています。4月20日には久々のササゴイが。連休明けにはウグイスもまた鳴き出しました。繁殖するかな？

今シーズンは何度か荒天でやり直しが多かったカワウは繁殖真っ盛り。管理人棟でもヒナの声が良く聞こえます。連休直後の標識調査では200羽近くの幼鳥にリングを付けたとのこと。北池のアオサギの巣は草が伸びほとんど見えませんがいくつか巣立ったようです。最近と同じ場所にダイサギも増え営巣もしているようです。

○観察舎ほか

管理棟での業務にもだいぶ慣れてきました。鳥や外の様子がつかみにくい、狭いので打合せや会議が大変なのが難点。観察舎動向は進展無し。館内の片付けを手の空いた時に少しずつ進めています。植物班作成の植物標本はありがたい事に県中央博と市自然博が引き受けてくれました。

○今後予定

6月4・5日谷津干潟の日、6月5日市川環境フェアに出展。江戸前干潟は7月10日・8月21日、フィールドミュージアムは6月26日クモ・7月17日カニ・8月28日未定。夏休み公開講座は今年は休みですが、セミ羽化観察会(8月13日頃予定)やライトトラップ観察会(8月20日)を企画中。

文：野長瀬・山口友の会新HP作成中！

<http://gyotokubird.wix.com/npofgbo>

賛助会費・寄付金・法人会費を頂いた方々（3，4月分）

どうもありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

屋久島やまがら便り

その38

山の中の集落跡

縄文杉へ向かう登山道の途中に、小杉谷という小さな集落跡地があります。4月2日、その小杉谷までの自然と歴史探訪をする観察会に行ってきました。屋久杉自然館からバスに乗り、新緑の林道を。一際明るい緑はヤクシマオナガカエデの若葉。山桜と並び、比較的標高の低い場所の伐採後や土砂崩れ跡など開けたところに多く見られます。眼下に水力発電所のダムなども見つつ、ほどなく荒川登山口に到着。小雨がパラついたものの幸いすぐに止み、準備運動をしたら、ここからは森林軌道と呼ばれるトロッコ道をひたすら歩きます。



ガイドさんからレールの外側の枕木は決して歩かないように、との注意が。人がほとんど歩いていないところは濡れると滑りやすく、大変危険なのです。小さな岩のトンネルを抜け、足元に気を付けつつ周囲に目をやると、右下には安房川本流。

苔むした美しい森なども現れます。半分に裂かれた椿の花が無数に散らばっているのは、ヤクザルがおやつを楽しんだ痕跡。ミヤマシキミの白い花もきれいでした。

軌道の分岐点を右へ行き、鉄橋を渡ると、忽然と小杉谷集落跡が現れます。かつて林業華やかかなりし頃、大正12年(1923年)から昭和45年(1970年)に閉山と



なるまで、杉伐採の前進基地として、営林署の職員さんやそのご家族たちが暮らした村です。多い時には133世帯540名(うち小中学生108名)が住んでいたそうです。立て看板を見て右の石段を下りると、そこはかつて小中学校の校庭があった

場所。脇には公衆浴場の跡も。当時はニクロム線で沸かしていたそうです。子どもの頃、実際この住人だった方が案内役として同行され、思い出話を語って下さい

ました。村には診療所や簡易郵便局、購買部などもあり、日曜日にはトロッコに乗って町まで買い物に出ていた話。きれいな女先生がいてみんなの憧れだったこと。山の神祭り(旧暦正月、5月、9月16日は山の神様の祭りの日で、昔から山仕事などをしてはいけない日。今でも登山ガイドさんなどはこの日をお休みにするところも多い)には、相撲大会や婦人会の踊りなどが盛大に行われたこと。小杉谷の子どもたちはみんな足が速く、町の運動会や野球大会では大活躍だったことなど、懐かしそうにお話していただきました。ここは屋久島の林業の原点とも呼べる場所なので、ぜひここに歴史をきちんと伝えていける施設を作ってほしい、とも言っておられました。

実は一番楽しみにしていた桜は、この冬はなんだかとても暖かかったかと思えば、1月には里でも雪が積もったりと気候が少々いつもと違ったせいか、今年はまだ全然咲いておらず残念。わずかに咲いた1本の木では、1匹のヤクザルがこれまた蕾をかじっておやつの最中でした。

とはいえ、例年だとここは4月第一週頃には、当時植えられたソメイヨシノと山の桜が一斉に咲き、それはそれはきれい、なはず。トロッコ道は平坦で難所もないですし、縄文杉ご一行は早朝とつくに行ってしまった後なので、静かな山をゆったりと楽しむことができます。ちょっと頑張るなら、ウィルソン株まで行って引き返したり、あるいは帰りは白谷雲水郷の方へ降りることも可能です。縄文杉もいいですが、そんな頑張りすぎない楽しみ方もおすすめです。(2016年5月14日・瀬戸山瑞香)

新規会員 どうぞよろしくおねがいたします。

ニャーのしどろもどろ

文 町田安男

絵 清水大悟

俺は猫のジュンペイ。飼い主ヒゲの大好きな季節がやってきた。むせかえるような緑のなかで、気がつくとも自分もヒゲの幼い日にタイムスリップしているようだ。



起き抜けにヒゲがボツリ！

今年の我が家のニホンアカガエルはどうしたんだ！

そこには新浜での記録的な産卵に引き換え、四月の初旬になってもなんの徴候もないニホンアカガエルへのイラだちが。

どういうわけかアズマヒキガエルの方は3ペアが出現、さっさとすませたのに、一向に姿をみせないことにヤキモキ・イライラがつのって悪態をつき回り、きわめて精神状態が良くない。

例年ならもう何ペアか姿を見せて、柔かい“クックッ”と鳴き声を聞かせるのに……

話更わって今回のヒゲが生酔いで話した、田舎暮らしの時代のコトを。

“ウソラッパー” この摩訶不思議なコトバは、ヒゲが横浜から埼玉県加須市に疎開した時に遭遇した日本語。つまりその地方でフツーに使われていたコトバだったとか。

その意味はウソのこと。そんな“ウソラッパー” ベーついてと、ごくフツーに話されていた子供たちの常用語。

何しろ周りは全て横浜弁？ 以外なのだから、ヒゲの面喰った顔が想像できようもの！

しかしヒゲのことだから程がなく仲間入りできた？

他の“モノ”の貸し借りの際、なしてヨ！とは返してくれだったし、女の子と一寸でも話すと“オメーフケテル”と云われたりしたのは、それまで、隣り近所の商店の子供たちが男女一緒に遊ぶのはごくごく当たり前の世界だったからかなりの抵抗があったとか。

70年も前の事柄がいまでも鮮明に思い出せて話せるというのは、いかにカルチャーショックが大きかったのか！

今では疎開ブタと云われてバカにされたことよりも、小川や田畑を駆け回った時の方が楽しかったと云っている。

当初、ヒゲが“ズック靴”（当時の運動靴）をはいて登校すると。町方を除く農家の子（実はこれが大半）は5月頃から9月にかけて殆どが今では信じられない“ハダシ”で通学、足洗い場を通るとそのまま拭かずに教室へ、が当たり前だった。

秋になるとタビとゲタ、“上バキ”は無しで今の健康指導者？が喜ぶスタイル。

町方のランドセルに対して一方は肩掛けの布カバンが大半を占めた。



しかしこれが昼になると立場が逆転、指をくわえて眺める町方の連中を尻目に、弁当を食べ散らかす現在ではとても信じられない光景が連日！まさに江戸の敵は長崎を地でいくようなことが・・・何しろ町方には米が無いのだからと云えばそれだけのハナシだが、喰べ盛りの子供にとっては、弁当の時が一丸いやだったとはヒゲの弁！

これは現在でもトラウマで食べ物是一粒も残さずたべ切るので近頃は腹だけ成長。結果は見たとおり。

ヒゲの同年代の人たちは今でもサツマイモ、カボチャ、スケトウダラの三品には余程のことがないかぎり手を出したがない。

毎日毎日三食、ごはんがわりに喰べさせられたのが原因なのは云うまでもないこと！

調味料もままならなかった時代のことでよほどますかったのだろう。

餓死した人も出た中を、みんな生きのびたのは全く親たちの努力と幸運と、生きようとした力で現在が有るのだ、と当人は云っている。

喰べモノのうらみは根深いものでヒゲは時々、運動会のことも云い出す。

それによると弁当とお菓子はどこにも売っていなかったのが全て自家製。

農家の子はかたまってそれぞれが持ち寄った大福餅（10cm位の塩アンの“アンビンモチといった）とおにぎりなどをほおばるのだが、見せつけるだけで町方にはだれひとり分ける子はいなかったと。

これは町方の子が学力だと何事にも勝っていたのが大きい。

町方と農家方とははっきりと別れ校庭ではもちろん教室内でも一緒に居なかったようだ。

これは女の子も同じだったが、ただ違うのは町方が圧倒的に少数派だったこと。

男女共学の教室では、はっきりと一線を画してめったに口をきかなかったのは前にも云ったとおりだが、横浜の都会？育ちにはこれが卒業まで理解できなかったと。

そうこうしているうちにヒゲはとなりの長屋のガキ大将の子分になり、連日腰巾着よろしくついて回るようになった。

少年期の一番多感なこの時季に仕込まれ？た“コト”は多く、今まではヒゲの財産となって、遊びやゴッコではだれも遅れをとられないと日々うそぶいてはばからない。

保護区内や外で過ごす時、この時身についてた“コト”がいかされるにつけ、いかに子供時代の育ち方が大切か。日頃ヒゲは子供たちに“コト”をやってみせるが、今どきの成績だけ重視の上っ面教育だけを受けているガキドモ（良い意味の）は身近な自然に興味を示すことが少ないようだ。

常日頃ケータイとゲームに明け暮れる日々が何ともったいないことか、オイラも同感！！

大人も含めて近い将来、必ず来るバッテリーが全て無力になった日を想像すると、ヒゲは早急に子供たちに“コト”に当たってくじけない智力と体力と能力を養わせないとえらいことになる云々の話があるが、これは自然の災害とは異なったダメージがはかり知れない大ききで日常を破壊するのがすぐそこに見えているのに・・・

ここでえらそんな話をガラリと更えてと、区内のバットで導入飼育していたアズマヒキガエルが5月変態上陸してヒゲを喜ばせた。

今期も産卵が無かったので、埼玉から入れたのが順調に成長し、5mmたらずの黒い仔が我先にとび出したというが、人間に換算するとビルの20階位から地上に降りるのだからそれこそ神業、着地するやいなや草陰や障害物の下に隠れて姿が見えなくなるのは本能とは云えまさに脱帽もの！

ひとつ心配なのは、先住人？のトンボのヤゴがかなりの量を食べているようなので、みんな早く蛙になれとヒゲが・・・

しかしこればかりはいくらヒゲとて、何ともできない。やはり時を待つしか仕方が、ないようだ。

一方、アカガエルの方はまだ足もでていないのは、生まれたのがおそかったのが理由。

泳ぎっぷりは、ヒキが女性的なのに比べると男性的で体色が茶色系、体も大きくて立派。

成体になるとこれが逆転するのだから面白い。

ショウブ配りも一段落してこれからは池周りのマコモ、アシを刈る作業が始まるが先立つのは、やはり人手。

ボランティアの人が来てくれればと思っているらしいのだが、思うようにならないのが現状！ 後継者が居ないのでやがて先細りになり池そのものが消滅するのでは、とヒゲは真剣に考えているが・・・



ツバメシジミ



かくれんぼ タシギ

2016年（春） 行徳地区鳥類調査結果

調査場所	新浜鴨場 (除く北池)	保護区					江戸川放水路	塩浜海岸 (市川側三番瀬)	総計
		本土	北池・釜無池・湯掛水機場	丸浜川 久喜間三角	周辺緑地	下水処理場			
調査日・天気	4/27晴	4/23 曇時々晴					4/24雨のち晴	4/23 曇時々晴	
種類\調査時刻	9:40-11:10	8:10-10:10	8:30-9:00	8:15-8:50	8:10-10:10	8:50-9:35	13:00-15:00	10:35-11:45	
キジ	1	1				1			2
オカヨシガモ	2								2
ヒドリガモ								42	42
カルガモ	5	4		6		10			15
ハシビロガモ	12		1			1			13
オナガガモ	6								6
コガモ	18	16	5	29		5	55		73
ホシハジロ	18	3	1			4		1	23
キンクロハジロ	3	18	11			29			32
スズガモ		105				105	68	10,500	10,673
カイツブリ	3	1	1			2	3		8
カンムリカイツブリ		1				1		3	4
キジバト	9	1	1	8	3	2	15	4	30
カウ	41	18	18	2	1,043	1	1,082	20	1,762
アオサギ		6	13	2	7		28	1	29
ダイサギ		16	8				24	5	29
コサギ							6		6
オオバン	21	2	7	2			11	26	80
ムナグロ							2		2
ダイゼン								4	4
コチドリ	1	1					1	2	5
メダイチドリ							17		17
ミヤコドリ							3	22	25
オオソリハシシギ								9	9
チュウシャクシギ							7		7
クサシギ		2					2		2
ソリハシシギ							1		1
イソシギ		1			1		2	1	3
キョウジョシギ							6		6
ミユビシギ								11	11
ハマシギ								258	258
カモメ								3	3
ユリカモメ							4		4
ズグロカモメ							1		1
セグロカモメ		1				1		1	2
コアジサシ							16	30	46
アジサシ								300	300
ミサゴ		1				1			1
トビ		3				3			3
ハイタカ		1				1			1
カワセミ	1			2		2			3
コゲラ				1		1			1
チョウゲンボウ							1		1
サンショウウイ				1		1			1
オナガ	2	8		3		1	12	4	18
ハシボソガラス				3		2	5	2	12
ハシブトガラス	4	1	1	10	2	5	19	3	34
シジュウカラ		1		1	2	3	7		9
ヒバリ		1					1		1
ツバメ	11	11		2	2	2	17	5	33
ヒヨドリ	8	14	8	7	3	82	114	2	125
エゾムシクイ			1				1		1
センダイムシクイ				1			1		1
メジロ		1	1	2	2	3	9		9
オオヨシキリ			1				1	1	2
ムクドリ	14			9		33	42	15	73
マミチャジナイ					6		6		6
シロハラ					2		2		2
アカハラ		1				1	2		2
ツグミ			1			6	7	3	10
大型ツグミ類sp.				1		1	2		2
キビタキ			2	1		1	4		4
スズメ	16	2		24	9	12	47	22	98
ハクセキレイ	1	3	1		1	3	8		10
セグロセキレイ						1	1		1
カワラヒワ	1				1	3	4	10	19
シメ				1			1		1
アオジ	2	1	3	5	2	3	14		16
オオジュリン		3	1				4		4
合計	200	249	86	123	1,086	170	1,714	260	14,039
種数計	23	32	20	22	15	19	48	30	68
番外:ドバト				14		5	19	44	63
アヒル	37								37

調査担当者…保護区・三番瀬(塩浜): 東良一・東有子・清水大悟・大林岳史・三木信行
 新浜鴨場: 山口誠 放水路: 鈴木裕子

(註)大型ツグミ類spは、アカハラまたはシロハラなどを指す。

江戸川放水路 観察メモ (5月1日)

- 行徳橋下部工の工事のため、堤防から離れて迂回して歩かねばなりません。
- チュウシャクシギは昼食場所等に計 30 羽くらいか。メダイチドリは 20 羽くらい。キョウジョシギ 3 羽等もいっしょでした。
- 妙典橋は線路を超える部分が橋脚の高さまで下ろされて低くなっていました。
- コイの大物が釣れていました。旧江戸川分流部付近。(本間 幸治)



イケメンですか キョウジョシギ



妙典橋

生産

蓮尾純子

どちらを向いても緑、緑。日本は本当に恵まれた国だなあ、と。アスファルトの隙間だって、舗装道路の片隅だって、ほんのちょっぴりの土や水分を頼ってすぐさま植物が芽生えてくるのですもの。ささやかなわが家の庭でさえ、それもお隣に伸びるとか、メーターを隠すといった対応のために最低限の手を入れるだけなのに、これから10月までは月に1、2回、草取りや枝切りでゴミ袋に2つ3つの植物体を出すことに。こんなに「生産」されたんだ、こんなにCO₂を消費して酸素を出してくれたんだ。もっとマジメに、こまめに草取りをやっていると、もっと「生産性」が上がるのだろうか。それともゴミとして処分される量がふえて、かえって環境に負荷をもたらすのだろうか。

友の会とは別組織として行っている野鳥観察舎の再開と存続を求める署名運動は、5月13日現在で17,750名をこえました。みなさま、ほんとうにありがとうございます。このすずがも通信が出来上がるころには、県の行政改革審議会（5月20日に行われるとのこと）の答申が出されているはずです。市川市は市長さんも市議会も再開・存続に積極的ですが、具体的にどうなるかの話し合いも審議会の答申待ちということになります。なんとも宙ぶらりんの状態。

今年度から義務としてのお仕事は週1日ということになって、けっこう自由がき

ます。それでも、何をするにしても（気分を切り替えるとか、次にとりかかる決断とかを含め）以前よりはるかに時間がかかるようになりました。年相応にぼやけている（いや、実年齢以上）ところ。幸か不幸か「やらなくちゃいけない」という焦りのほうもけっこうぼやけてきたので、しっかり気持ちをひきしめないと、何事も片付かないまま。

などと言いつつ、ひさびさにせんたくばさみのマスコット、タヌキとハクビシンの大増殖に励んでいます。次の金曜・土曜と大学のクラス会で養老溪谷への1泊旅行。卒業以来初めて会う友人もいて、とっても楽しみ。参加者15名とのことで、人数分作ればみなさんに差し上げられます。いい年のおじいちゃんばかりだけど、喜ぶマゴや嫁や友人もいることでしょう。でも間に合いそうな気がしない……。せっせと待ち針を使って、針山をひねりつぶして小さいのまで出そうとしていたら、まあ、短い縫い針が出るわ出るわ。差し込んだまま針山の中で行方不明にしてしまったものです。やっぱり私って、人間の出来そのものがいかがげん。

暖かくなると、夜だけ出すはずの猫どもの帰宅もいいかげんに。お隣の雨どいのスズメがもうすぐ巣立ち。飼い主としてはお隣のスズメ同様、気が気ではありません。今朝も三毛ふじこがまだ外に。1歳半のこわがり春太（しゅんた）がスーパーボール以外は獲らない猫に育ってくれるとよいのですけれど。では。

2016年 3・4月 活動報告

市川市・千葉県等、他団体主催行事含む。定例観察会は除く

- ・3/4(金)風呂田さん：フィールドミュージアム研究会とシンポジウム
- ・3/6(日)スタッフミーティング：禽舎とやちよかん祭りについて
- ・3/10(木)市自然博：標本用鳥死体引取り(5種5体提供)
- ・3/10(木)管理人棟電話回線工事。事務所機能を管理棟へ引っ越し開始。
- ・3/20(日)県中央博へ植物標本440点寄贈(植物班)。
- ・3/24(木)浦安鳥類カウントコース下見
- ・3/23(水)仮設トイレ設置(県自然保護課)
- ・4/7(木)自販機館外へ移動。
友の会電話(047-397-1175)、携帯(070-1491-9898)へ転送設定完了
- ・4/13(水)いちかわ環境フェア(6/5開催)参加説明会：野長瀬
- ・4/14(木)浦安鳥類カウント下見・県自然保護課長視察
- ・4/29(金)or30(土)里山管理実習
- ・随時：植物調査(植物調査) 昆虫調査(昆虫班)
巣箱試作(巣箱イベント班)
夜間生物調査企画書等作成(夜間生物調査イベント班)

団体利用・視察等

- ・1/19(火)塩浜学園3年生保護区見学(27名)
- ・2/21(日)市川市環境政策課・自然環境課保護区観察会(15名)
- ・3/2(火)行徳第二保育園野鳥病院見学(110名)
- ・3/26(土)法政大学野鳥愛好会OB会(15名)

取材対応など

- ・3/5(土)保護区シンポジウム(行徳公民館)：46名
「行徳生物多様性フィールドミュージアム研究会」活動開始宣言。
(ケーブルテレビ・毎日・朝日新聞取材)
- ・4/19(火)～28(木)NHK「さわやか自然百景」取材(5月22日放映)

企画行事等

- ・3/5(土)保護区シンポジウム(行徳公民館)：46名
「行徳生物多様性フィールドミュージアム研究会」活動開始宣言
- ・4/2(土)桜の花の観察会 午前50名・午後51名参加
- ・4/17(日)江戸前干潟研究学校 24名参加
- ・4/24(日)フィールドミュージアム(干潟生物多様性) 16名参加

行事案内

本欄と併せ、ブログ「行徳野鳥観察舎日誌」をご参照ください。<http://suzugamo.seesaa.net/>

市川市主催行事については、「広報いちかわ」に掲載されます。

★屋外での行事に参加する際は、必ず飲み水と帽子をご持参ください。

☆ボランティアデー 毎月第4土曜日

13時から16時ごろまでの予定です。観察舎スタッフといっしょに保護区の管理作業をしてみませんか？
参加ご希望の方は、事前に行徳野鳥観察舎までお問い合わせ下さい（電話047-397-9046）

☆『谷津干潟の日』に出展します。 6月4日(土) 5(日)

会場：谷津干潟（習志野市秋津5丁目）ぜひ遊びに来てね。

☆『いちかわ環境フェア2016』に出展します。 6月5(日)

会場：ニッケコルトンプラザ内コルトンホール（最寄駅：京成鬼越、JR本八幡）。
展示のほか、ライブやイベントもたくさんあるよ。10時～15時半 荒天中止

☆行徳生物多様性フィールドミュージアム

6月26日(日)、7月17日(日) 8月20日(土) 10時～15時

保護区の生物多様性や景観、環境そのものを展示・研究資源として、保護区の野外博物館機能を研究・発信していこうというプログラム。詳しくはチラシをご覧ください。

☆江戸前干潟研究学校 7月10日(日)、8月21日(日) 10時～15時まで

昨年度につづく実施。東邦大学理学部東京湾生態系研究センターの指導により、保護区内の湿地や干潟で環境学習をするプログラムです。詳しくはチラシをご覧ください

☆三番瀬自然観察会（船橋） 6月5日(日) 7月3日(日) 8月7日(日)

集合：船橋海浜公園バス停 10時。 解散：14時ごろ。

交通：京成船橋駅南口（JR船橋駅南口より徒歩2分）より船橋海浜公園行きバス乗車、終点下車。または、JR京葉線二俣新町駅より徒歩25分（バスもあり）

持物：弁当、飲み物、帽子、雨具、長靴（または濡れてもいい靴）、観察用具など 参加費：200円

主催：千葉県野鳥の会 問合せ：田久保（XXXXXXXXXX）。カニや魚などの干潟の生物が活発に動く季節。それを狙って7月、8月にはウミネコやシギ、サギなどの水鳥もあつまります。

暑いですので帽子・飲み物をお忘れなく。

保護区の観察会のご案内

どなたでもご自由に参加できます。

保護区の中には、以下の観察会などで入ることができます。多少汚れてもよい靴で。夏は蒸し暑くなりますので、帽子や飲料をご持参ください。（保護区内にトイレ、水飲み設備はありません。）

☆定例園内観察会（毎週日曜、祝日）＊事前に観察舎前で名簿にご記入ください。

集合：行徳野鳥観察舎前 13時30分 解散：15時30分ごろ。＊雨天中止

問い合わせ：野鳥観察舎（047-397-9046） 協賛：行徳野鳥観察舎友の会

さまざまな命の営みが活発な季節。干潟のトビハゼ、保護区を舞うチョウやトンボ、そして鳥たち。

☆定例新浜観察会（毎月第2日曜日） 6月12日（日）、7月10日（日）、8月14日（日）

集合：地下鉄東西線 行徳駅前（改札を出て左前方の広場） 10時

2コースに分かれます。「新浜保護区コース」は保護区の中をゆっくり回り、13時30分ごろ解散。「放水路経由コース」は、バスで江戸川放水路へ、その後保護区を巡り、15時30分ごろ解散。解散場所はいずれも観察舎前。

主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会。 問合せ：友の会（070-1491-9898）

参加費：200円（18歳以下は無料） 持物：昼食、飲物、帽子、放水路経由コースはバス代400円（子供200円）

滴のような緑陰で、鳥たちはひっそりと子育て。邪魔しないようにそっと観察を。カニや虫も楽しい季節。

☆夕暮れ観察会（毎月第4土曜日） 6月25日（土） 7月23日（土） 8月27日（土）

集合：行徳野鳥観察舎前 16時30分 解散：18時30分ごろ。

問い合わせ：友の会（070-1491-9898） ＊小雨決行

日の長い季節。まだ明るい夕暮れをツバメやコウモリ、ヤンマが乱舞します。カニもぞろぞろ。

☆平日観察会 6月2日（木） 7月7日（木） 8月4日（木） ※

集合：行徳野鳥観察舎前 10時 解散：正午ごろ ＊雨天決行

問い合わせ：友の会（070-1491-9898）

伸びる伸びる、水辺のアシやガマ。春に個性的な花を咲かせた桜たちには、サクランボが実っています。

友の会の電話番号が変わります。よろしくお願いいたします。新番号 070-1491-9898

編集後記

☆私の本業では、細かい字の記入や内容審査が必須だ。メガネをはずし、拡大鏡を片手に顔を机にへばりつけている大先輩を偲び笑った新人時代。あれから25年。老いは誰にもやってくる。ごめんなさい先輩がた。だからというわけでもないけれど、本文の一部について字を大きくしました。いかがでしょうか（D）

すずがも通信 No. 218(隔月発行)

2 0 1 6 年 6 月 1 日 発 行

発 行 所 認 定 特 定 非 営 利 活 動 法 人 行 徳 野 鳥 観 察 舎 友 の 会

E-mail tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

年会費 賛助3000円以上、普通2000円、電子1000円、ジュニア(18歳以下)500円、法人・団体10000円以上

郵便振替 行徳野鳥観察舎友の会 02220-4-6129

URL http://homepage2.nifty.com/suzugamo/top.html

編集 清水大悟、若林直樹、西方明雄、岩崎加奈子（庶務）

印刷 株式会社 オフィス ティースカイ

[千葉県行徳野鳥観察舎（休館中）